

検討に当たっての視点（例）

1. 改革の方向性に関する論点整理（資料 2 及び資料 3）

- 各事業の特性と現状について、以下の 3 つの基準から論点が整理されているか。
 - ① 住民サービスとしての事業の（本質的な）必要性。
 - ② 公営で行うべきか、民営で行うべきか（「公共」で担う必要性）。
 - ※当該事業について、一般論として「公共」で担うべきといえるか。また、地域特性に応じて「公共」で担うべきといえるか。
 - ※政策目的から「公共」で担うべきといえるか。
 - ③ 「公共」で担うべき場合、公営企業会計（独立採算）で行うか、一般会計で行うか。
- 各事業の特性と現状を踏まえた「改革の方向性」となっているか。
- 「改革の方向性」に盛り込むべき要素は網羅されているか。
- 各事業の特性を踏まえ、「改革が必要な企業」が整理されているか。
 - ・他に「改革が必要な企業」はないか
 - ・「改革が必要な企業」を浮かび上がらせるメルクマールとなる指標を設定する際の留意点
- 各事業の具体的な改革の事例を踏まえ、他の事例はないか。また、指標の設定に役立つ着眼点はどのようなものか。

2. 改革の検討を推進するための方向性（資料 4 及び資料 5）

- 「経営比較分析表」の拡大の対象事業を選定する際に、どのような点を考慮すべきか。
- 「経営比較分析表」について、既存指標の役割や新たな指標の設定において必要とされる観点。
- 民営化・民間譲渡に係る検討に資する指標とはどのようなものがあるか。
- 「経営比較分析表」をどのように利活用すべきか。
 - ・「経営比較分析表」を読み解くために、指標の特徴や相互関係について、どのような形で整理を行うべきか。